

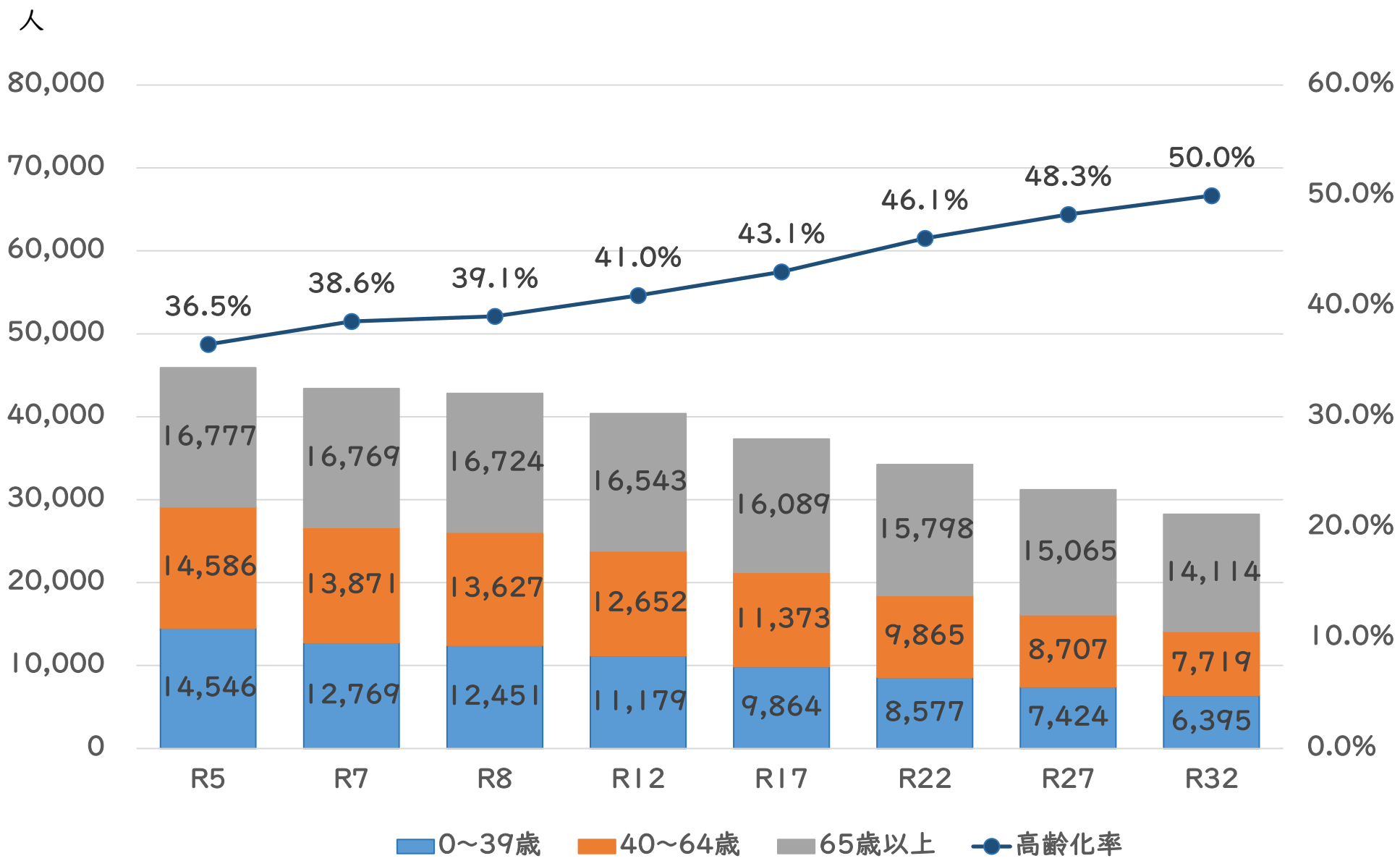
令和7年度

第2回

地域包括支援センター運営協議会
中間報告

令和8年1月22日(木)

高島市の人口推計



【出典】実績値：住民基本台帳

推計値：社人研推計

要支援者数（市内全域 令和7年11月末現在）

		要支援1	要支援2	計
第1号被保険者		750	473	1,223
(内訳)	65歳以上75歳未満	60	40	100
	75歳以上	690	433	1,123
第2号被保険者		5	2	7
総数		755	475	1,230

*第1号被保険者:65歳以上の被保険者

*第2号被保険者:40歳以上~65歳未満の被保険者

地域包括支援センターの設置状況

令和7年11月末現在

	高島市 地域包括支援センター		あいりんつむぎ 地域包括支援センター		高島・安曇川 地域包括支援センター		高島市 全体
受託法人	高島市役所 高齢者支援課内		近江愛隣園		(特非) たかしま 地域包括ケア研究会		
所在地			高島市今津町南新保87-1		高島市勝野3060番地3		
地域	新旭	朽木	マキノ	今津	安曇川	高島	
人口	10,415	1,441	4,927	10,159	12,068	5,547	44,551
世帯数	4,737	720	2,425	4,890	5,692	2,508	20,972
65歳以上	3,342	701	2,201	3,886	4,392	2,204	16,726
75歳以上	1,943	430	1,363	2,287	2,525	1,270	9,818
高齢化率 (%)	32.1	48.6	44.7	38.3	36.4	39.7	37.5
後期高齢者率 (%)	18.7	29.8	27.7	22.5	20.9	22.9	22.0

総合相談

1) 総合相談支援事業

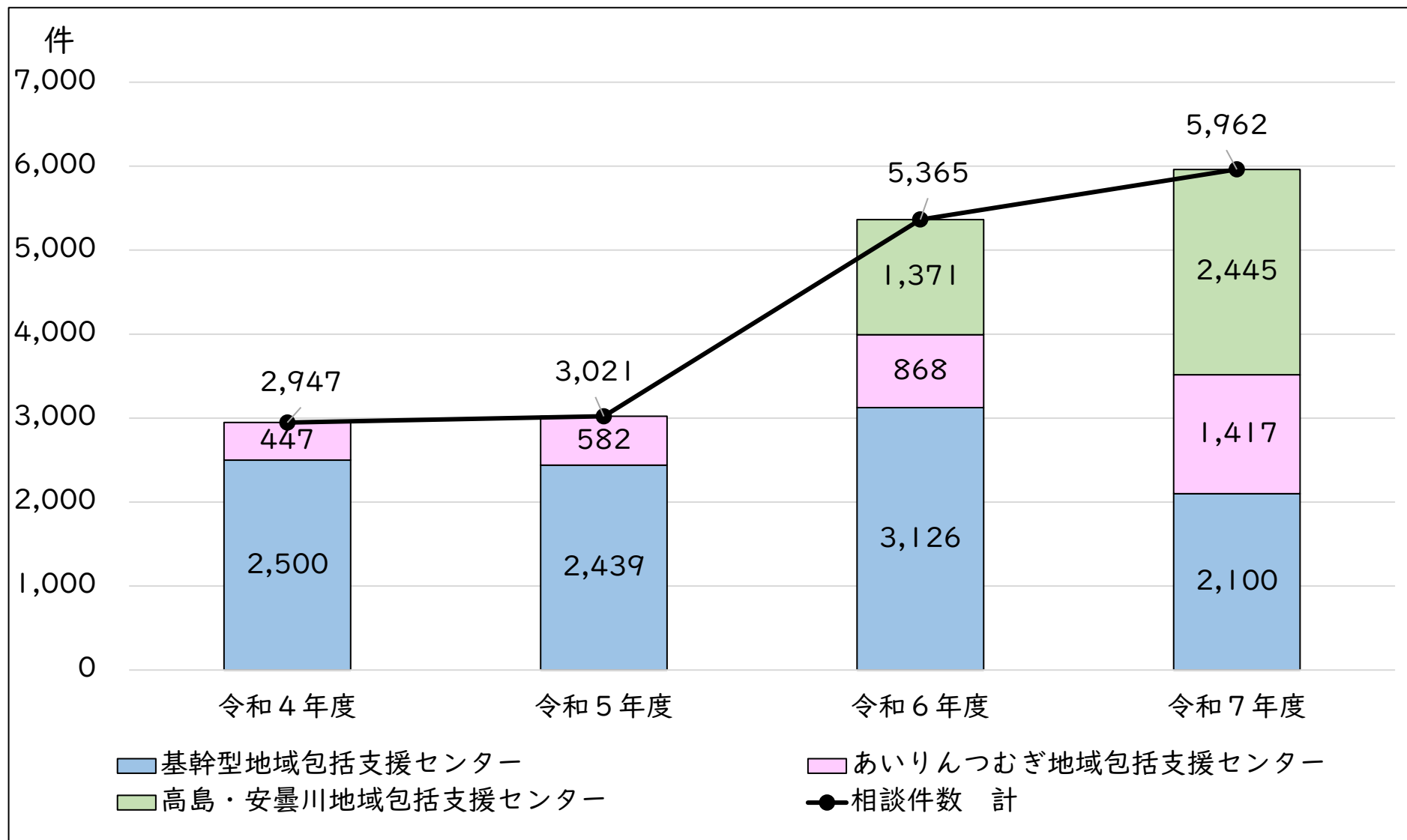
相談については課題を整理し、地域のサービス・介護保険制度の利用支援及び関係機関との連携を図っている。また、緊急性の高いケースについては早急な対応に努め、身寄りのない認知症高齢者、複合多問題を抱える家族などについて、各機関との密な連携、情報共有を実施している。

①相談件数（令和7年度11月末現在 市全体5,962件）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
基幹型地域 包括支援センター	相談延べ件数	2,500 (4,435)	2,439 (3,979)	3,126 (4,227)	2,100
	相談実人数	868 (879)	915 (945)	630 (833)	540
あいりんつむぎ 地域包括支援センター	相談延べ件数	447 (678)	582 (822)	868 (1,260)	1,417
	相談実人数	313 (447)	324 (458)	294 (414)	305
高島・安曇川 地域包括支援センター	相談延べ件数	—	—	1,371 (2,539)	2,445
	相談実人数	—	—	460 (639)	478
相談件数 総計		2,947 (5,113)	3,021 (4,801)	5,365 (8,026)	5,962

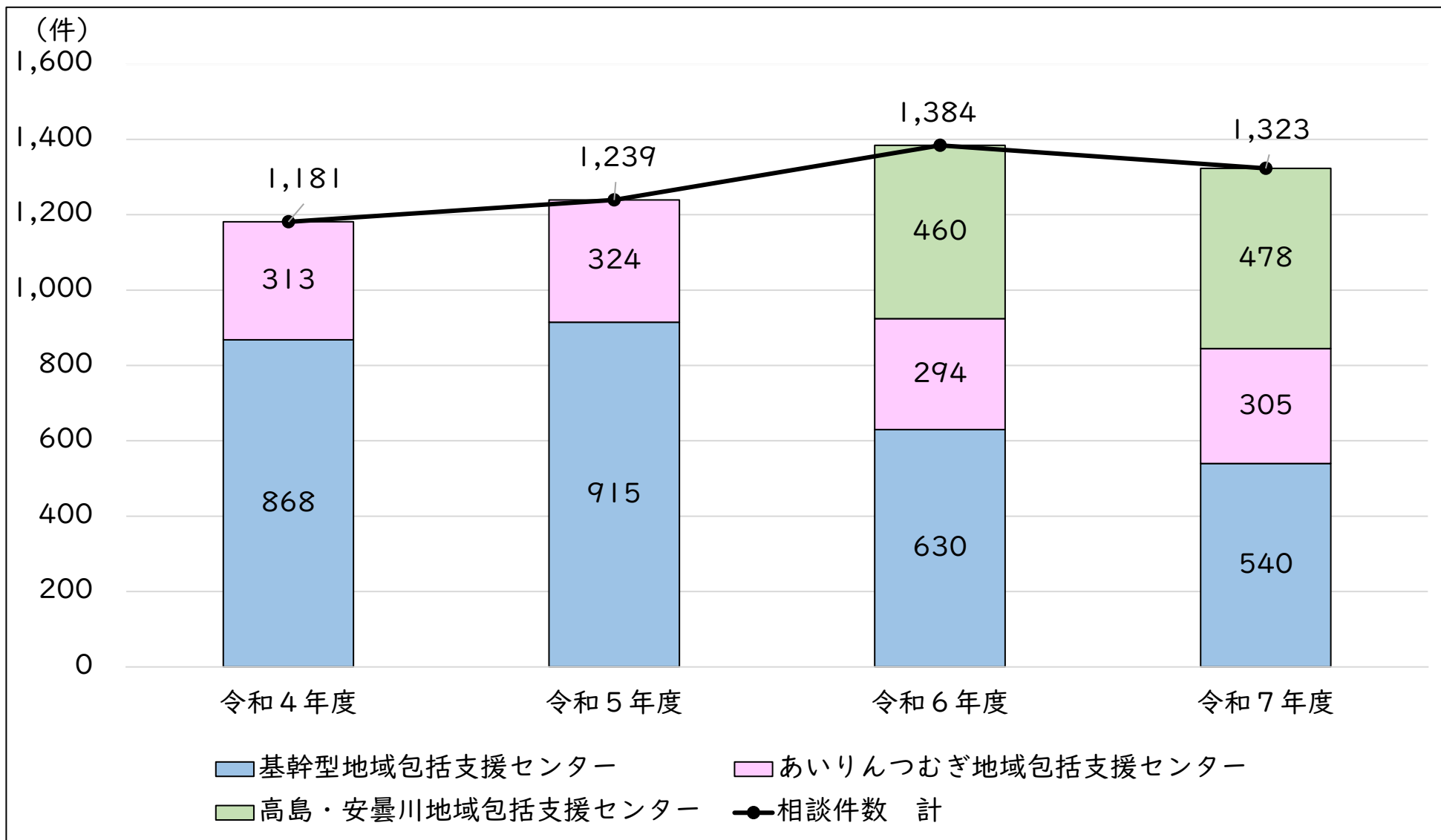
※11月末の数値（ ）内は年度を通しての数値

②地域包括支援センター別 相談件数推移



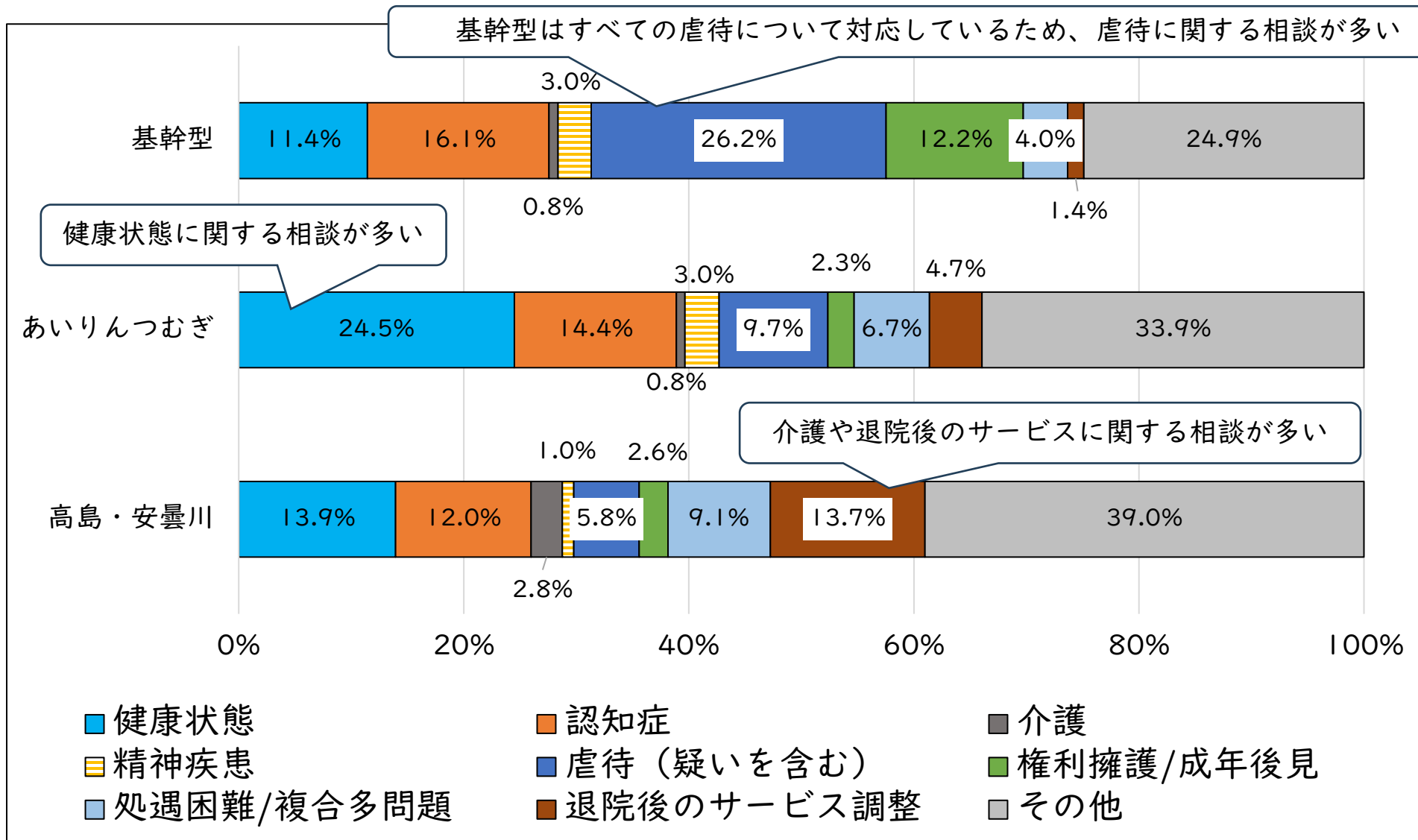
※各年度11月末の数値

③地域包括支援センター別 相談実人数推移

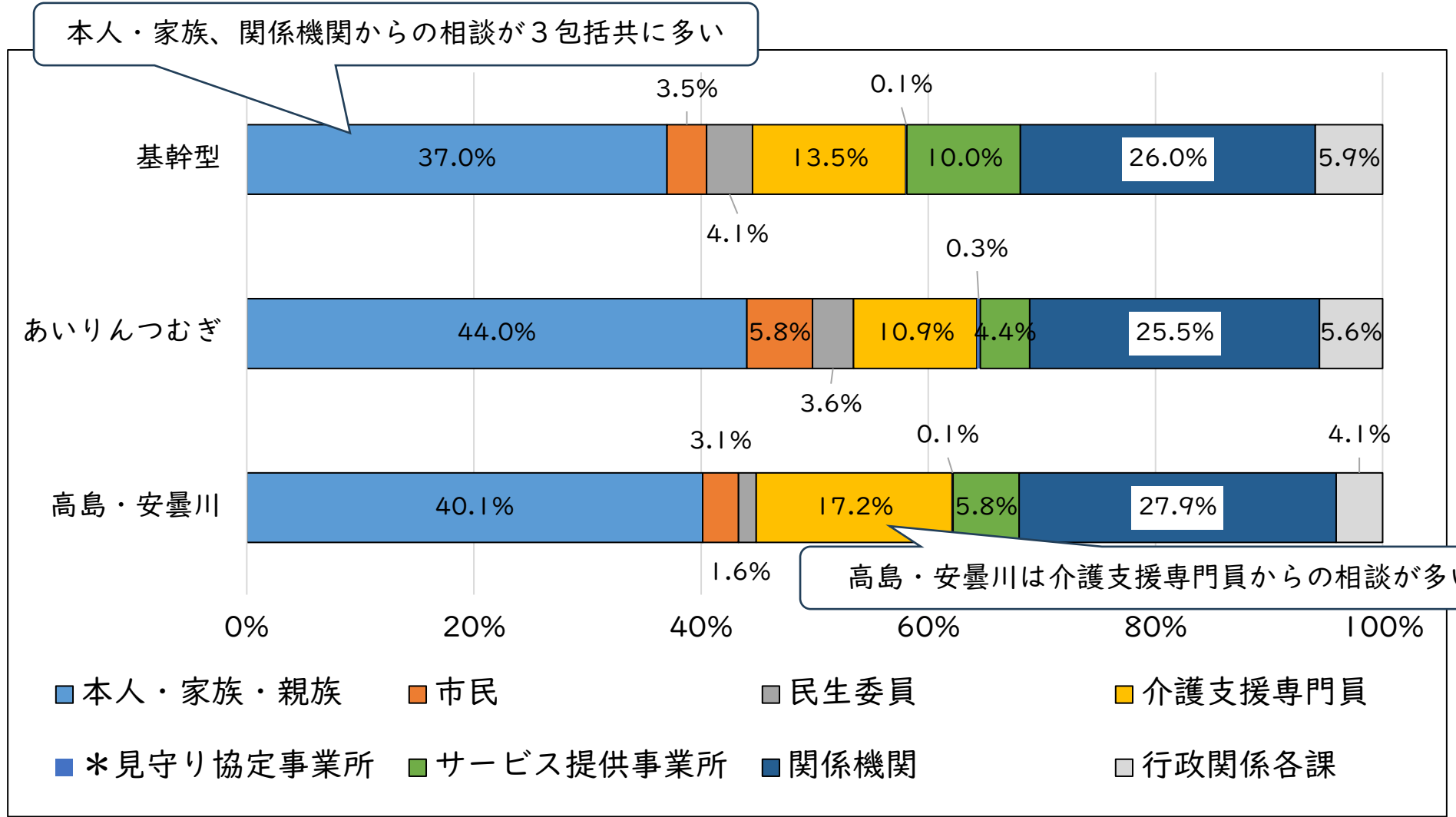


※各年度11月末の数値

④主な相談内訳の割合（令和7年11月末現在）



⑤相談者別件数（令和7年11月末現在）

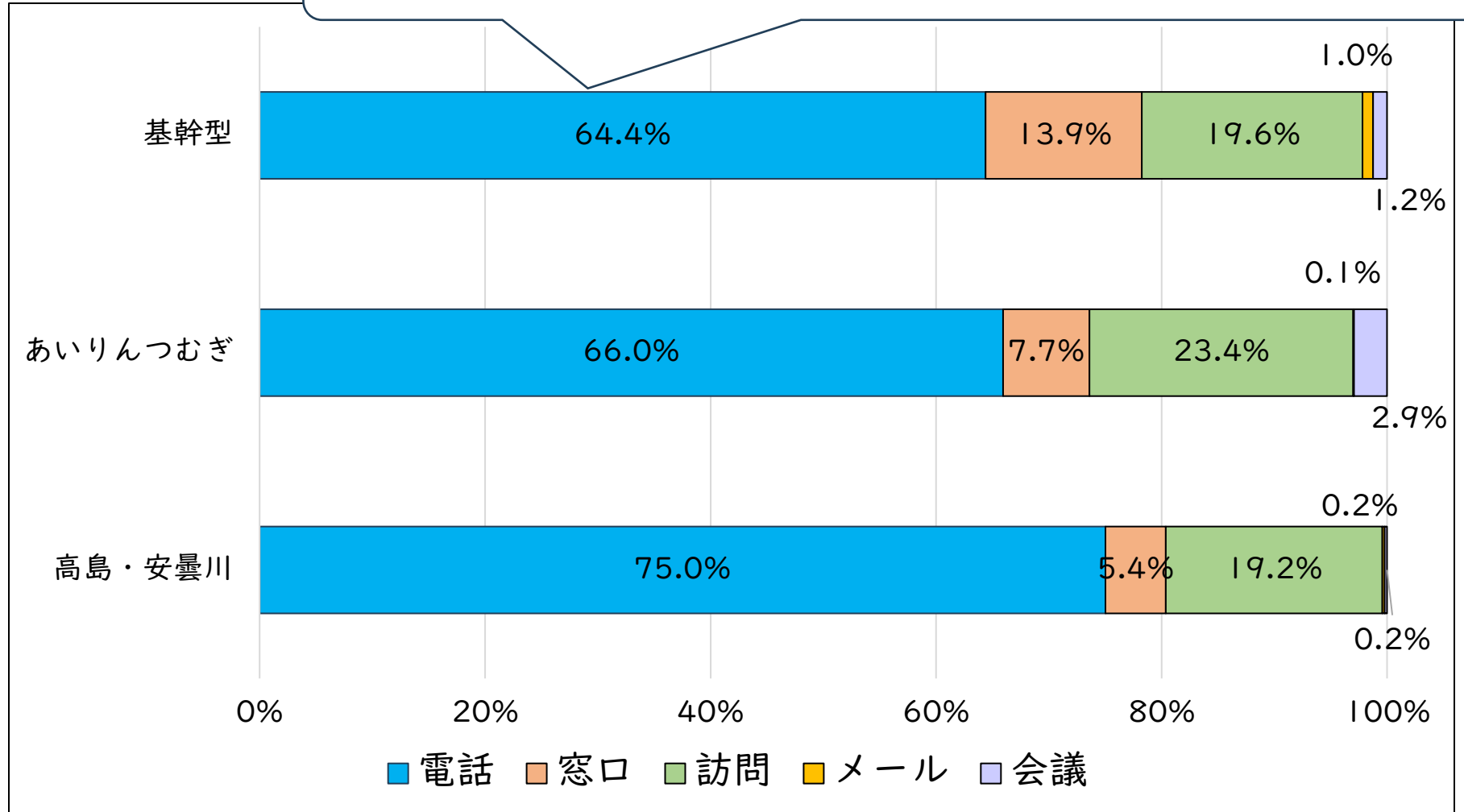


*見守り協定事業所: 令和6年度末で高島市内の80事業所が高島市と見守り協定を結んでいる。

※関係機関: 警察、医療機関、後見人、地域包括支援センター等

⑥地域包括支援センター別 相談対応方法内訳割合（令和7年11月末現在）

3包括共に電話相談が多く、相談内容を聞いたうえで、その後、訪問や会議等開催、必要な支援機関の紹介を行っている。



1) 介護予防把握事業

①医療機関・健診未受診者訪問

医療機関・健診未受診の75歳以上の方の訪問を基幹型包括支援センターで実施。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
基幹型地域包括支援センター	10人(21人)	53人(67人)	36人

※11月末の数値（ ）内は年度を通しての数値

②未利用者訪問

要支援の認定があるが、サービス未利用の方の訪問を実施。その後、必要な方は介護保険サービス等を導入。

	令和6年度	令和7年度
基幹型地域包括支援センター	12人(13人)	41人
あいりんつむぎ地域包括支援センター	23人(23人)	11人
高島・安曇川地域包括支援センター	30人(34人)	17人

※11月末の数値（ ）内は年度を通しての数値

2) 介護予防普及啓発事業

①運動機能向上教室・生活機能向上教室

運動機能や生活動作の向上を目的に委託して実施している。

※11月末現在の数値（ ）内は年度を通しての数値

	運動機能向上教室		生活機能向上教室
名称	運動教室さくら新旭 運動教室さくら高島	あいりん運動教室	生活教室さくら
委託先	医療法人かおり会	近江愛隣園 今津病院	医療法人かおり会
週当たりの定員	130人	30人	10人
参加者数	3,934人 (5,406人)	442人 (837人)	226人 (53人)

*生活教室さくら・・・令和6年度は令和7年1月から開始



②オンライン体操教室

期間	令和7年12月3日～令和8年1月28日
内容	<ul style="list-style-type: none">・事前説明会：ZOOMのダウンロードと操作説明・前後の体力測定（デジタル測定：Moffバンド）・週2回、全12回のオンライン自宅トレーニング
委託先	アトラス情報サービス株式会社、株式会社Moff
参加者	27名+ α （トレーニングのみ参加） <ul style="list-style-type: none">・男性6名、女性21名・60代（6名）70代（16名）80代（5名）



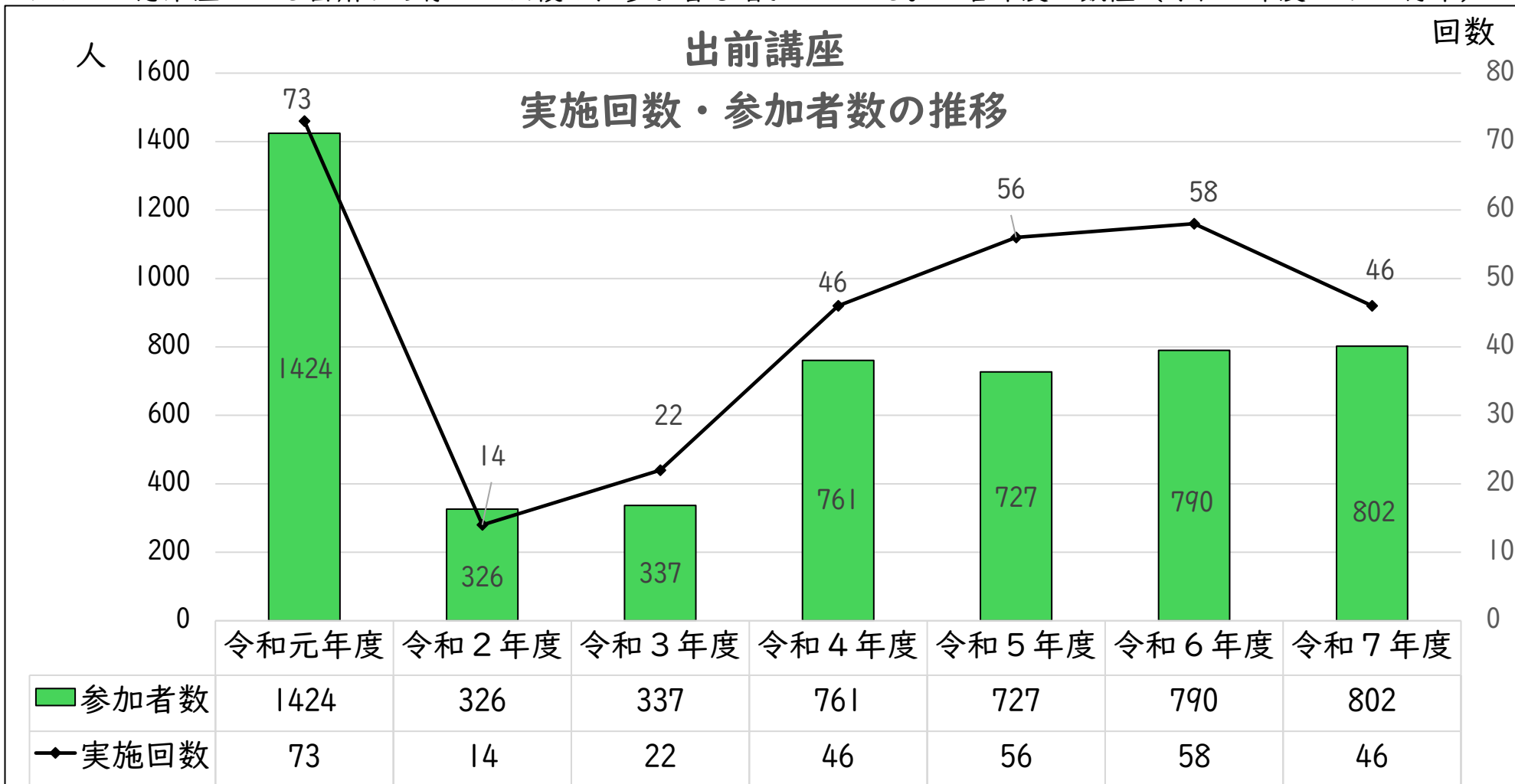
12/3(水)体力測定会を実施。



12/4(木)から開始
集会所で集まって受講しておられる地域もある。

③出前講座

地区や老人クラブ等からの依頼により介護予防についての啓発と地域活動を支援を実施。令和2年度の新型コロナウイルス感染症による自粛から徐々に回復し、参加者も増加している。*各年度の数值（令和7年度のみ11月末）



3) 地域介護予防活動支援事業

① 「高島あしたの体操」 動画再生回数 (累積)

	令和6年度	令和7年度
高島あしたの体操	809回 (895回)	956回
ダイジェスト版	1,157回 (1,234回)	1,256回

※11月末現在の数値 () 内は年度を通しての数値



② 「高島あしたの体操」 活動状況調査 調査期間：令和7年8月11日～8月29日

	継続	休止	終了	合計
団体数	36	11	2	53

③ 「オリジナル介護予防体操」 ※11月末現在の数値

実施団体	7団体
YouTube再生回数	293回

フレイル予防サポーター養成講座、リハ職による出前講座を受講した団体にDVDを貸与している。

④高島市通いの場支援事業補助金交付

高島市の「通いの場」の充実を図ることを目的として、地域住民によって自主運営される「通いの場」の運営費用に対する助成を行った。新たに3団体が申請され、合計22団体、参加者数は392人となっている。

団体名	人数	団体名	人数
寄り合い処 くつつき	8人	高島陶芸クラブ	14人
高島あしたの体操サークル	18人	体操教室スマイル	10人
★ウキウキワクワク高島絵手紙クラブ	14人	高島配食ボランティアグループ	22人
シニアヨガ教室	10人	たかしま男の料理クラブ	10人
歌声喫茶 うたごえ浜かぜ	80人	卓球同好会マーガレット	7人
お休み処 まちあかり	30人	山上会	15人
男のまかないクラブ	10人	パソコンクラブ亀楽会	13人
どれみふぁプリンス	10人	マキノG.G.和気あいあい会	10人
いまづ自然観察クラブ	30人	より処カフェ	13人
★創年のたまり場どろんこ	12人	カラオケ熟艶会	16人
★高島あしたの体操の集い	15人	高島市囲碁同好会	25人

★は新規

⑥フレイル予防サポーター養成講座

健康で自立した生活が継続するためには、フレイルを予防していく必要があるため、地域の健康づくりが継続できるように、通いの場を運営されている方の支援を行う。

【受講対象】 ・現在通いの場の運営に関わっている方

今後地域やグループでフレイル予防に取り組もうとする方



	内容	講師	参加者
1回目	<ul style="list-style-type: none">・高島市の高齢者の現状・フレイルとは その予防・みんなでできるフレイルチェックの方法	保健師 理学療法士	21人
2回目	<ul style="list-style-type: none">・運動の効果について・高島あしたの体操などサロンで取り組みやすい運動の実技	理学療法士	17人
3回目	<ul style="list-style-type: none">・フレイル予防に大切な食事のポイント・お口こそ忘れず オーラルフレイル対策	管理栄養士 歯科衛生士	19人
4回目	<ul style="list-style-type: none">・サポーターとしての心構え 地域での実践者に学ぼう	サロンや介護予防の実践者	19人

修了者 18名 ※4回の教室中、3回以上受講された方

4) 地域リハビリテーション活動支援事業

① 集団支援

「高島あしたの体操」等の介護予防活動を行っている団体に対してリハビリテーション専門職によるフォローアップ指導を実施。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
回数	13回(15回)	10回(20回)	7回
参加人数	139人(164人)	100人(236人)	87人

※11月末の数値()内は年度を通しての数値

専門職の介入が、地域の活動を継続するための後方支援になっています。



② 個別支援

介護支援専門員、保健師等からの依頼により、リハビリテーション専門職が対象者の自宅や施設へ出向き指導や助言を実施。

【依頼件数】 4件 (居宅介護支援事業所2件・施設2件)

5) 一般介護予防評価事業 評価会議を開催(予定)

【日時】 令和8年3月13日

【出席者】 医師・理学療法士・運動機能向上教室担当者・生活支援コーディネーター・民生委員・市民・高島健康福祉事務所・委託地域包括支援センター・健康推進課・高齢者支援課

- 【内容】
- ①高島市の現状と課題について
 - ②令和7年度介護予防事業の結果および評価
 - ③令和8年度の方向性と取り組みについて

地域ケア会議推進事業

①地域ケア個別会議

高齢者等が自分らしい生活を継続できるように、地域関係者や専門職などが協働して個別ケースの支援を検討。

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年11月末
高島市地域包括支援センター	5回	8回	8回
あいりんつむぎ 地域包括支援センター	4回	3回	6回
高島・安曇川 地域包括支援センター		7回	4回

※地域ケア個別会議を主催した回数を計上

②自立支援サポート会議

高齢者等が地域でその人らしい生活を継続することを支援するため、多職種が共同して個別ケースの支援を検討し、自立支援に向けたケアマネジメントの実践力を高める。また、そこから導かれた地域課題を整理し、地域における包括的な取り組みや地域のネットワークの構築に結び付けている。

【検討メンバー】

薬剤師・歯科衛生士・栄養士・理学療法士・作業療法士・看護師・主任介護支援専門員
生活支援コーディネーター等

	事例テーマ	参加人数
第1回	本人の思いが見えづらい認知症の方の支援	13人
第2回	精神的に不安定でケアプラン通りに支援が行えない方への支援	12人
第3回	自宅での生活を続けたい認知症の方のインフォーマルサービスを中心とした支援	11人
第4回	透析治療を受けながら自宅での生活を続けたい方への支援	12人
第5回	障がいのある娘の介護をしながら自身も認知症をなった高齢者男性の支援	12人
第6回	認知症による記憶障害により食事を中心とした生活への不安が強い方への支援	13人

③地域ケア推進会議

地域包括ケアシステムに関係する代表者が、高齢者の地域共通課題と解決策を共有し、相互の役割・機能を理解しながら地域に必要な社会資源の開発やネットワークの構築、施策化に向けて検討。

開催日	3月開催予定
メンバー	医師会長、在宅医療連携コーディネーター、リハビリテーション連携協議会代表、介護サービス事業者協議会会長、第1層生活支援コーディネーター、社会福祉協議会地域福祉課課長・第2層生活支援コーディネーター、市民代表、あいりんつむぎ地域包括支援センター、高島・安曇川地域包括支援センター等

地域ケア個別会議や自立支援サポート会議で出てきている地域の現状

- ・山間部の介護サービスに偏りがある。
- ・地域の見守り活動にも限界がある。地域の人が疲弊してきている。
- ・自宅で生活したい。住み慣れた地域で暮らしたい。
- ・認知症の理解がなかなか進まない。若年性認知症の方もいるが、居場所の問題もある。




<検討課題>


- ・介護予防・自立支援を見据えた地域と医療連携について
- ・独居高齢者(特に男性)、身寄りがない方、認知症の方への持続可能な見守り体制について

生活支援体制整備事業（委託業務）

「生活支援コーディネーター」と「協議体会議」を設置し、地域住民の「互助」による助け合い活動を推進し、地域全体で高齢者の暮らしを支える体制作りを進めている。

委託先

第1層（高島市全体）：NPO法人コミュニティねっとわーく高島
コーディネーター1人 

第2層（中学校区ごと）：高島市社会福祉協議会
コーディネーター6人 

生活支援体制整備協議体会議

独居や高齢者世帯、認知症高齢者が増加する中、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、NPO、民間企業、ボランティア団体、シルバー人材センターと連携しながら、生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けて協議体会議を開催している。

第1層（市域）	年2回
第2層（中学校圏域）	各年2回



毎年「たかしまお役立ち情報」を発行しています。

在宅医療・介護連携推進事業（高島市医師会委託事業）

高島市医師会に在宅療養コーディネーターを配置し、医療と介護などの連携による退院支援・在宅での療養支援・急変時の対応や在宅看取り支援体制の整備を進めている。

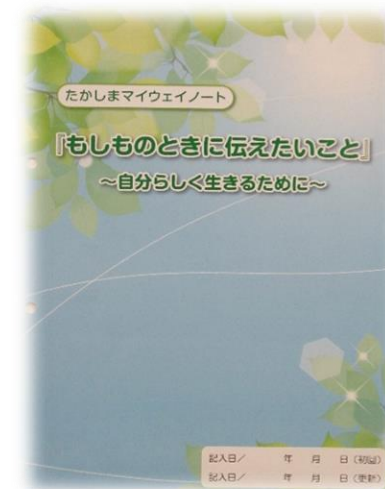
事業名	事業内容	参加人数 (人)
職種間連携	医師と多職種との座談会 ～聞いてみよう！ お互いを知って 顔の見える関係づくり ～	40
市民啓発	在宅療養講演会 テーマ：「落語で笑って学ぼう！ 笑ンディングノート」 講師：行政書士・社会人落語家 生島 清身氏	113人
	出前講座 テーマ：「在宅医療・介護予防」 2地区 テーマ：「たかしまマイウェイノート」 5地区	20 127

【高島版エンディングノート「たかしまマイウェイノート」の普及啓発を重点的に実施】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年 11月末	合計
たかしまマイウェイノート 配布数	422	501	1,178	848	2,949

【令和7年度 配布数内訳】

	回数	配布数
出前講座、講演会、イベント	14	589
関係機関	—	239
窓口等	—	20
計	14	848



*たかしまマイウェイノート設置場所

- ・高島市医師会 在宅療養支援センター（高島市民病院内）
- ・高島市役所 高齢者支援課 各支所
- ・あいりんつむぎ地域包括支援センター
- ・高島・安曇川地域包括支援センター

「チームたかしま」のホームページからダウンロードすることもできます。
⇒<http://www.t-takashima.net>

医療介護連絡帳の修正・活用啓発

介護連絡帳から医療・介護連絡帳へ名前を変更



かいご記録

氏名	性別	年齢	〒	市	区	町	番	号
利用期間	～	～	～	～	～	～	～	～
体 重	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
血 圧	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg
脈 拍	回/分	回/分	回/分	回/分	回/分	回/分	回/分	回/分
血 糖	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL
血 酸素	%	%	%	%	%	%	%	%
水分摂取	cc	cc	cc	cc	cc	cc	cc	cc
体 温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃



体調管理表

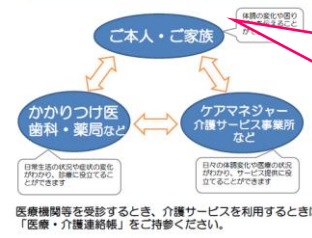
月 日	✓	✓	✓	✓	✓	✓
体 重	kg	kg	kg	kg	kg	kg
血 圧	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg	mmHg
SPO2	%	%	%	%	%	%
脈 拍	回/分	回/分	回/分	回/分	回/分	回/分
血 糖	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL	mg/dL
血 酸素	%	%	%	%	%	%
体 温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
自 覚 状 況	息切れ、むくみ、動悸、倦怠感、食欲不振	息切れ、むくみ、動悸、倦怠感、食欲不振	息切れ、むくみ、動悸、倦怠感、食欲不振	息切れ、むくみ、動悸、倦怠感、食欲不振	息切れ、むくみ、動悸、倦怠感、食欲不振	息切れ、むくみ、動悸、倦怠感、食欲不振
実施年月日						

高島市は心不全の方が多く、医療、介護等が連携していくことが必要！

血圧に加え、息切れやむくみ・動悸、倦怠感・食欲不振等の自覚症状を記載できるように変更

医療・介護連絡帳を活用し、ご本人やケアマネジャー、医療機関等との連携に活用

- ◆医療・介護連絡帳の活用例
- ご本人・ご家族にとって、情報が一目でわかります。
 - ・血圧や体重、食事の状況を記入することで、日々の体調管理に役立ちます。
 - ・かかりつけ医はどこか、どんな介護サービスを利用しているか、緊急時の連絡先等が一覧で把握できます。
 - 医療や介護の支援者にとっても、役立ちます。
 - ・ご本人の生活状況を知ること、必要な支援ができ、また、普段の暮らしの負担に気づきやすくなります。
 - ・災害時など、いざというときには、様子を知らせてもらうことができます。
 - ・緊急時のかかりつけ医、日々の体調について聞いておけば、入院や介護サービス利用時に必要な情報を伝えることができます。



医療機関にも医療・介護連絡帳をもっていくことで、普段の様子や心不全悪化の様子がわかるように・・・

1) 認知症(疑い)の方の一人歩きの現状

「認知症」になっても、安心して出かけられる体制の整備を実施。
高島警察署から、「保護した高齢者が認知症の疑いがあるので訪問してほしい」との情報提供も増えている。

	令和5年度	令和6年度	令和7年11月末	【令和7年度】
事前登録者数	108人(113人)	80人(86人)	102人	・行方不明対応の実人数は4件(延べ14件) ・警察への通報前後で発見されることが多く、今年度は警察との連携や、防災無線、メール配信の回数は減少している。
うち新規登録者数	21人(26人)	18人(24人)	27人	
認知症高齢者位置探索システム(GPS)利用助成金交付	0件	1件	0件	
市民へのメール配信整備(登録者数)	4,531件	4,838件	5,016件	
防災無線対応	2件	3件	1件	
広域対応	3件	1件	0件	
警察との連携	14件	12件	1件	

※事前登録者数及び新規登録者数については、令和5～6年度も11月末現在の数値()内は年度を通しての数値

2) 認知症サポーター養成講座

① 認知症サポーター養成講座

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
開催回数	13回(18回)	12回(16回)	15回	464回
認知症サポーター	472人(566人)	237人(278人)	304人	13,897人 *H17年から累積

※11月末現在の数値（ ）内は年度を通しての数値

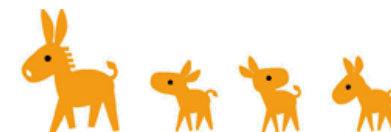
②一般市民向け 認知症サポーター養成講座

受講の機会がない方を対象に、誰でも参加できる認知症サポーター養成講座を実施した。



日時	場所	内容・講師	参加人数
令和7年 9月8日(月)	安曇川公民館 視聴覚室	認知症サポーター養成講座 講師:高島市キャラバンメイト	6人

3) チームオレンジ交流会



開催日	内容（テーマ）	参加者数
12月12日	1) 新しい認知症観と本人参画をすすめるチームオレンジ活動 2) 高島市チームオレンジ活動報告 3) 交流会	15人
メンバー	チームオレンジ5団体、認知症カフェ2団体、キャラバンメイト、社会福祉協議会、市民協働交流センター、高島健康福祉事務所、あいりんつむぎ地域包括支援センター、高島・安曇川地域包括支援センター	

参加者の声

- ・スタッフが何でもしなければならぬと思ってしまいがちであったが、（認知症の方も含めて）参加者一人一人ができることをしてもらうことが大事と思った。
- ・（交流会等で）お互いのしていることが分かれば困りごとの解消につながるつながりができると思う。引き続き交流会を行っていきたい。
- ・チームオレンジの紹介をもっと。皆さんに周知が必要。

4) 若年性認知症聞き取り調査



目的：若年性認知症の方からの相談の際、若年性認知症の方の居場所についてどこにつながるというのかと迷うことがあったことをきっかけに、認知症になっても希望と尊厳を持って暮らせる高島市を目指して認知症の方や家族等のニーズを調査することを目的とする。

実施期間：令和7年10月～11月

実施対象者：若年性認知症と診断された方11名、そのご家族11名

聞き取り実施：6名

結果：

最初はずいぶん
ショックを受けた。
患者に対する支援を
もっとしてほしい。
心細く思う。

制度について
もっと窓口を一本化
してほしい。

作業所でもっと働き
たかったが症状が進
み、続けられなかつ
た。

課題：

- ・個別ケースごとの支援者・家族が試行錯誤の中で支援に従事されている。
- ・相談窓口や居場所がすべてない訳ではないが、十分な周知ができず、本人や家族が不安を抱えている。
- ・就労支援

➡ 支援者のスキルアップ・ネットワークづくり、相談窓口、地域資源の周知

高齢者虐待防止法に基づく対応状況

①養護者による高齢者虐待

地域包括支援センターが高齢者虐待の相談・通報を受理した場合は、緊急判断会議を開催し、虐待が疑われる高齢者やその養護者に対して、速やかに状況確認を行い、介護支援専門員と共に介護サービスの調整や介護者の介護負担の軽減に努めている。また、警察との連携が必要なケースが増加し、養護者支援の難しさを感じている。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年 11月末
通報相談件数	30	29	22	18
虐待の事実あり	23	19	9	8
虐待の事実なし	7	10	13	9
事実確認継続中				1

※通報相談があったケースに対し、虐待の有無の数値を計上。

高齢者虐待防止法に基づく対応状況

②養介護施設従事者等による高齢者虐待

養介護施設従事者等による高齢者虐待に対しても、対応している。

令和7年度は今までに3件の通報相談があり、認定および事実確認を行っている状況。養介護施設に対し、改善指導を行うとともに、改善計画書の提出や報告により、再発防止に向けた支援を行っている。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年 11月末
通報相談件数	2	0	0	3
虐待の事実あり	1	0	0	2
虐待の事実なし	1	0	0	0
事実確認継続中	0	0	0	1

※通報相談があったケースに対し、虐待の有無の数値を計上。

③養介護施設従事者等による高齢者虐待防止の推進担当者会議

対象	内容	参加者数
養介護施設従事者	講師:びわこ福祉の杜 社会福祉士 中原 一隆氏 ①:「高齢者虐待に対する組織的な対応について」 ②:「高齢者各グループ代表者高齢者虐待防止に関する取り組み結果報告」	① 59人

2回目は1月16日実施

④高齢者権利擁護・虐待防止研修会

対象	内容
一般市民 1月23日開催予定	講師:認定特定非営利活動法人 あさがお 理事長 尾崎 史氏 「気づく・つなぐ・守る!~地域で守る高齢者の安心~」

⑤総合相談・スキルアップ研修会

複雑で複合的な問題を抱えるケースも多く、地域包括支援センター職員一人ひとりのスキルアップを目的に、年に2回の研修会を実施。(2回目は3月実施予定)

対象	内容	参加者数
地域包括支援センター職員	講師:びわこ福祉の杜 中原 一隆氏 「高齢者虐待事実確認調査について」	12人

2回目は「高齢者の権利擁護について」

⑥高齢者虐待防止ネットワーク代表者会議

開催日	内容
令和8年3月6日 開催予定	高島市における高齢者虐待対応について 現状課題、今後の展望 報告
メンバー	学識経験者、高島市医師会、滋賀弁護士会、社団法人成年後見センター・リーガルサポート滋賀支部、社団法人滋賀県社会福祉士会、高島市民生委員児童委員協議会連合会、社会福祉法人高島市社会福祉協議会、湖西介護支援専門員連絡協議会、滋賀県高齢者成年後見支援センター、高島警察署、大津地方法務局、滋賀県権利擁護センター、滋賀県高島健康福祉事務所、高島市の関係課、高島市地域包括支援センター

成年後見制度利用支援事業

身寄りのない高齢者や認知症の高齢者などの支援が増えている。また、親族からの相談も増加している。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度11月末
成年後見親族申し立て支援	2	6	4
成年後見等市長申し立て	6	3	0
審判請求助成	0	0	0
後見人等報酬助成	7	9	3
成年後見等市長申し立てによる 親族調査委託	3 (滋賀県行政書士会)	1 (滋賀県行政書士会)	0 (滋賀県行政書士会)

*成年後見制度市長申し立て件数の増加に伴い、申し立て支援を効率的かつ迅速におこなうため、親族調査および親族関係図・親族一覧表の作成を平成30年度から滋賀県行政書士会に委託している。

介護サービス相談員派遣事業

①事業所への訪問

介護保険サービスの資質向上を目的に、介護サービス相談員が施設・事業所へ訪問し、利用者との橋渡し役となり相談活動を行っている。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (11月末)
介護サービス相談員数	11人	11人	10人
訪問事業所	36事業所	40事業所	22事業所
訪問延べ人数	411人	314人	185人

②介護サービス相談員連絡会

活動内容の共有や、対応の相談などを定例会で共有している。

・月1回実施

③介護サービス相談員 意見交換会

活動の活性化を目的に、年に1回、介護保険サービス事業所と相談員の意見交換会を開催しています。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
参加者数	17人	21人	20人